

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月5日

【評価実施概要】

事業所番号	2671400253
法人名	ウェルコンサル株式会社
事業所名	グループホームフレンド平城山・山城
所在地	〒619-0215 京都府木津川市梅美台2丁目1-1 (電話) 07774-71-8170

評価機関名	社団法人京都ボランティア協会		
所在地	京都市下京区西木屋町上ノ口上る梅凌町83-1 ひと・まち交流館京都		
訪問調査日	平成19年8月21日	評価確定日	平成19年12月7日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 12 月 26 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 6 人, 非常勤 9 人, 常勤換算	10.8 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造り		
	3 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	57000円	その他の経費(月額)	円
敷金	有(円)	○ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	○有(70万 円) 無	有りの場合 償却の有無	○有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食 500 円
	夕食	700 円	おやつ 200 円
	1800円		

(4) 利用者の概要(8月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	7 名		
要介護3	4 名	要介護4	6 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.2 歳	最低	77 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	公立山城病院、大森クリニック
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは京都府の最南端、ほとんど奈良に近い木津川市の新興住宅地にあり、地域住民のグループホームへの理解は比較的高い。ビルの1階と2階を使用しており、中はバリアフリーであり、生け花や観葉植物、熱帯魚の水槽などをおき、家庭的な雰囲気づくりに工夫している。季節感のある野菜が豊富で味付けの良い手作りの食事、毎日夕方に入れるお風呂、ほとんど毎日出かける散歩や買い物、喫茶店利用、毎月企画される季節の行事など、利用者の暮らしを豊かにする取り組みの工夫がある。下校途中の小学生が来訪したり、中学生の体験学習を受け入れるなど、利用者の社会的交流もなされている。家族へは毎月『フレンドだより』と手書きの『一言通信』、写真を送付しており、家族カンファレンスをするなど、家族との連携は密である。管理者は長年にわたって認知症ケアの経験があり、認知症への理解が深く、職員の指導をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回評価の指摘のうち、緊急時マニュアルの作成、苦情受付担当者の設置、理念の掲示、家族への報告、医療ケアの充実等が、適切に改善されている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は管理者がおこない、職員に配布して意見を受け付け、改めて記入している。評価によって、職員の意識に変革がおこることを認識し、評価の意義を感じている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>自治会長、民生委員、家族により、いままでに2回の会議をしているが、正式メンバーの委嘱や要綱の作成は今後の取り組みである。2回の会議は議事録が残され、参加したメンバーからの積極的な意見が出され、ホームとしても改善への取り組みをしている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族とは面会時や行事に参加されたときに積極的に情報交換している。また家族アンケートをとり、それをまとめて家族に報告している。家族からはホームをよりあげるための建設的な意見がだされており、それを生かした取り組みをしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>新興住宅地でもあり、密接な近所づきあいはないが、町内会には参加し、ゴミ広いなどを共にしている。近所の小学校の子どもたちが下校途中に寄ってくることがあり、利用者の楽しみとなっている。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組みんでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「自分らしい安心できる生活をお手伝いします」「入居者の尊厳を守ります」「地域との連携に努めます」の3点を掲げ、ホームの玄関に掲示している。重要事項説明書には明記されており、契約時に利用者や家族に説明されている。パンフレットには明記されていないので、地域への理解のためにも明記が期待される。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は会議等においても、また日常の業務のなかでも、管理者により職員にたいして常に啓発理解が求められており、職員には浸透している。毎月のケア会議において「今月の目標」が話し合われるが、そのなかにも理念を盛り込むようにしている。今後は職員の話し合いによりサブ理念を策定していこうと考えており、理念の浸透によりいっそうの期待がもてる。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	グループホームの開設にあたり、自治会長は理解があり、現在もよく来訪される。自治会のグリーンディや夏祭り等の行事には参加している。新興住宅地であり、地域でのサークル活動や老人会は盛んではなく、図書館や文化ホールなどの公共施設も遠いので、地域との交流には苦慮している。またホームの前の道路を歩いている人は日常的には少ない。そういったなかで、下校途中の小学生が立ち寄ってくれることがあり、利用者の喜びとなっている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は管理者等がおこない、職員に意見を求めて記入している。前2回の評価によって、職員の介護や福祉についての意識が変わったと管理者は感じており、評価の意義を認識している。前2回の評価報告書は職員に回覧している。改善点の指摘について、緊急時マニュアルの作成、家族への報告、苦情受付担当者の設置、理念の表示、医療ケアの取り組み等が改善されている。町との連携や職員の定着については努力の過程にある。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	重要事項説明書に運営推進会議の要綱が明記されているが、メンバーの委嘱はまだおこなわれていない。自治会長、民生委員、家族等の参加により、いままでに2回の会議が開催されており、議事録が残されている。会議の内容はホームからの報告と参加者からの意見であり、ホームの運営に関して積極的な意見が出されており、ホームとしてもその意見を生かした取り組みをはじめている。	○	運営推進会議は要綱を策定し、メンバーに委嘱状を出し2カ月に1回開催することが求められる。メンバーには市町村職員や地域包括支援センターの職員などに積極的に関わってもらうことと、地域との連携が困難な状況にあるので、地域住民にも多数関わってもらうことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組みんでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	木津川市には毎月発行の『フレンドだより』を持参して、理解と啓発をもとめている。地域ニーズをつかむことや市と一体となって、介護相談や認知症啓発のための行事等はおこなっていない。	○	今後、認知症の方が地域において増加していき、在宅で介護に苦勞している家族の存在等を考え、市が主体的に認知症啓発教室や介護相談に取り組むように、ホームから積極的に働きかけることが求められる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族には写真がいっぱい掲載されている『フレンドだより』と手書きの『一言通信』、写真を送付しており、非常に喜ばれている。金銭管理に関してもこのときに報告している。また介護計画の見直しの時期には家族カンファレンスをおこなっており、利用者の状態を双方で検討している。新職員の紹介は面会時におこなう。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会は多く、2日に1回くる人もおり、また行事の際には多くの家族が来訪するので、その際に積極的に情報交換し、ホームへの意見を聞くようにしている。また家族アンケートをとり、出された意見をまとめるとともに、家族にも報告している。家族からだされた意見を検討し、改善への取り組みもしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	なるべく離職者を減らすように、月8回の休日や夏季休暇、給料の配慮等と、パート職員には個人的な事情を十分考慮してシフトを組むなどしている。またモノが言いやすい職場づくりをめざしている。退職者があった場合は、利用者へのダメージを防ぐために、チームプレイでフォローするようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修は計画的に行われており、認知症ケア、緊急対応、感染症等のテーマが取り上げられている。外部研修受講も取り組まれており、資料を保存し、毎月のケア会議で伝達研修をおこなっている。資格取得の意欲を持っている職員には、研修受講を有休にしたり、シフトで考慮したりして応援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人は奈良県においていくつかのグループホームを開設しており、奈良県内でのグループホーム運営協議会の中心となっている。そのなかでの情報交換、研修等にはこのホームからも参加している。また同じ建物内にあるグループホームエバホームとの交流は、利用者をつくめておこなわれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組みんでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用申込や見学の際に、契約までに利用者に1週間の宿泊をしてもらっている。また利用開始後も、電話を再々かけて、利用者に家族から声かけをしてもらうようにしている。また家族の協力を得て、生活の継続ができるように利用者が使っていたものを持ち込んでもらっている。居室の家具の配置も在宅時にあわせるように配慮している。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者からことわざや味つけ、漢字等を教えてもらうことがある。満州から引き揚げてきた利用者がいまはリクライニングの車椅子に座り、言葉もでないが、「みかんの花咲く丘」で涙をこぼされるのを見て、職員も共に泣く場面がある。戦争のビデオを見て、「もう見たくない。止めて」という利用者に、職員は思わず共感している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用開始時はもちろん、介護計画の見直しにあたっては、本人や家族の意向を聴取し、記録されている。とくに家族との連携は密にとれており、「家族カンファレンス記録」として、家族との話し合いが記録されている。利用者の生活歴は最初のアセスメントだけであり、簡単な記録のみである。	○	利用者の生活歴はグループホームでの生活を定める上で非常に重要であり、最初のアセスメントのときに聞けなかったことも、その後生活を共にするなかで、職員が聞き取ることが多いので、情報の共有のためにも、それらを記録に残していくことが望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画の作成にあたっては、ケアマネジャーがケース記録を読み込むこと、ケース会議において職員が気が付いたことを意見としてだしてもらい、検討する。新人職員から良い意見がでることもある。作成された介護計画を家族カンファレンスにかけ、修正し、決定する。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的見直しは半年に1回おこなっている。まず「全体状況アセスメント」に記入し、その後ケース記録やふだんの観察に基づいて「サービス評価表」をつけ、ケース会議にかけて職員全体で検討している。介護計画の見直しのための一連の作業は適切におこなわれているが、利用者一人ひとりの毎日の記録に介護計画との関連が薄く、利用者の反応や表情、言葉が少ないので、さらに充実させることが期待される。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組みんでいることも含む)
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ医への受診は同行している。理美容院へは以前は同行していたが、現在は資格をもっている以前のスタッフが月に1回訪問してくれており、カット、パーマ、カラーができています。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科医は毎週、歯科医は年2回、それぞれ往診があり、そのときの記録を「看護日誌」として、利用者一人ひとりに残している。認知症専門医との連携もある。歯科医の往診がなくても、歯科衛生士が来訪してくれるような取り組みが期待される。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ホームとしての「重度化対応指針」を策定し、家族に配布するとともに口頭での説明をおこなっている。それによるとグループホームでは医療行為が認められていないことを理解してもらったうえで、家族が希望すれば最期の看取りをおこなうとしている。職員も不安はあるものの最期までお世話したいという希望をもっており、医師と看護師の協力も得られる。いままでにまだ該当者はない。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報保護には注意をしている。トイレ誘導の声かけにも職員は気をつけている。建物の構造上、浴室や洗濯室の扉は食堂に面しているため、食事中は十分注意することが期待される。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームのおおよその日課は決まっており、朝食は7時ころであるが、起きてこない人は無理に起こさず、後で朝食をとってもらっている。夜も自室で遅くまでテレビを見ている人もおり、就寝時間も自由である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組みんでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は高齢者の食べ慣れたものであり、季節感があり、野菜が豊富である。味付けもよくできている。お箸、茶碗、お湯飲みは利用者の持ち込んだものであり、共用食器は陶器製で家庭的なものである。何人かの利用者には大きなビニールエプロンが使われている。職員は共に食べていない。そのかわりにおやつは共にしながらゆっくりかかっている。食事の調理、盛り付け、配膳、下げ膳、食器洗い等を手伝う利用者は少ない。	○	食卓が狭い、食事介助が必要、食後すぐに服薬支援や口腔ケアの支援が必要という理由で職員は利用者とともに食事をしていないが、グループホームの生活で1日3度の食事は大きな比重を占めるものであり、利用者とのかかわりという点からも共に食事をする事が求められる。また食べこぼしのための大きなビニールエプロンは何らかの工夫が望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日4時ころから夕食までが入浴タイムとしており、希望すれば毎日でも入浴することができる。入浴の順番や湯温、ゆっくり入りたい人などへの配慮もしている。プライバシーに配慮しており、同性介助である。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	多くの利用者ができることとして、洗濯物たたみ、居室や廊下の掃除、台所の手伝い、花の水遣り、食材の買い物などを分担しておこなっている。折り紙、貼り絵、歌、エレクトーン、合奏などが楽しまれている。生活歴から引き出されたものとして、裁縫を教えていた利用者には今も縫い物担当としてカーテンやズボンのすそ上げなどをお願いしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的に散歩や喫茶店によったり、買い物の際に利用者自身が支払う支援などがおこなわれている。盛夏には朝8時ころに散歩している。日帰り旅行としては車で大仏殿、般若寺、岩船寺、学研都市の公園などにでかけている。利用者の思い出の場所や墓参りなどの希望ができれば、家族をお願いしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	道路からの門扉はもちろん、玄関ドアも施錠されていない。ホーム内の勝手口は施錠されているが、開けることは簡単にできる。ただ2階の非常口は利用者にとっては高いところに鍵があるので、非常時の対策が十分なされることが期待される。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防計画、防災対策マニュアルや防災管理組織表が策定されており、避難訓練は利用者もふくめて年2回おこなっている。備蓄は用意されていない。L	○	2階からの非常階段は車椅子の人はもちろん、歩行困難の人にも使うことはむずかしく、職員の手をとると思われる。地域住民やボランティアの人たちが、災害時にはかけつけてくれるように、協力協定書のようなものが策定されることが望まれる。また水や食料をはじめ、防災グッズの準備が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組みんでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりの食事摂取量は記録されており、1日の献立は1600～1800キロカロリーを目標としている。水分の目標は1日1500ccであり、あまり飲まない利用者にはゼリーをつくって冷蔵庫に入れておき、提供している。1カ月に1回くらいは1日の献立のカロリー値を記録し、栄養バランスを検討することが期待される。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入り口には季節の花が咲き乱れており、玄関を入ると生け花があつたり、観葉植物の鉢があり、ホーム内は緑豊かである。2ユニットは入り口も全く別なので、独立している。ホーム内は木製の床でバリアフリーになっており、適度に視線をさえぎる設計なので、落ち着ける。居間にはソファや椅子がおかれ、新聞がさりげなくおかれているのも家庭的である。玄関に「今日のスタッフ」として写真と名前がでているのも好ましい。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はすべて木製の床にベッドと木製の家庭的な箆笥がそなえつけられている。そのほかに、大きな鏡台、衣装掛け、衣装ケース、テレビ等が持ち込まれている。箆笥の上に飾り棚をおき、小さな人形、民芸品、各地のおみやげ品、マスコット等をきれいに飾っている人や、亡くなった妻の位牌と写真の前に鉦と水、佛飯を飾っている人もいる。また自分や家族の写真、書や絵の自身の作品、手作りカレンダー等もおかれている。		